

2021 (令和3年) 1/22 金曜日

小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ
購読お申し込み



0120-468-012
(6-21時、一部地域は平日10-18時)

定価 1か月1750円 (本体1620円、消費税130円)・1部70円

毎日小学生新聞編集部
郵便 〒100-8051 (住所不要)
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321
メール maishou@mainichi.co.jp

『点字毎日』記者のひみつ



みなさん日本に点字新聞があるのを知っていますか？
ぼくは1月22日『点字毎日』という日本で唯一の点字新聞を発行している人達をオンラインで取材しました。取材をして知ったことをみなさんにしようかします。

日本にひとつの点字新聞

ぼくが取材をしてすごい！と思ったことは、佐木記者のことです。

取材は初めて行く場所が多く、危険も不安もいっぱい。雨電柱にぶつかったり、道に迷ったり、たりすることもあるそうなんです。大変なことでも、記者の仕事です。

佐木記者は、全七目で目が見えませんが、にもかかわらず自分で取材をして『点字毎日』の記事を書いています。そんな佐木記者には、記事を書くための心強い味方がいることを教えてくれました。それは次の3つの便利アイテムです。

- ① スマートフォン
- ② アップルウォッチ
- ③ 白杖
- ④ 点字をかく機械
- ⑤ エムレコーダー
- ⑥ カメラ
- ⑦ Xかネ

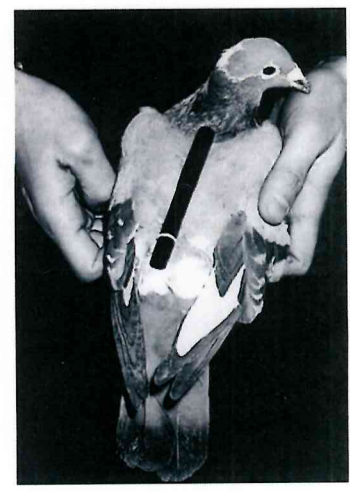
お礼の言葉をもろうとかができることは、記者白として働く喜びだと教えてくれました。この障がいがありながらも、最新アイテムを使いこなして働く佐木記者を、そんけいしています。

伝書鳩の思いなるほドリへ

毎日新聞東京本社には、緑豊かな皇居のほりにある。本社が入るパレスサイドビル(東京都千代田区一ツ橋)の屋上には、6羽のハトの像が置かれている。ビルの設計者からの依頼で制作されたというが、なぜハトの像なのか。
今のように交通や通信が発達していなかった100年ほど前、「伝書鳩」は新聞社にとって重要な通信方法

だった。「伝書鳩」はハトの帰巣本能を活用。東京の各新聞社では100羽以上のハトを屋上で飼っていた。取材現場から原稿を送るときは、ハトを数羽つれていったという。記者は通信用のうすい紙に記事を書き、長さ4センチほどの筒に入れてハトの足につけて放った。写真フィルムは長さ10センチほどの筒に入れ背中にゴムバンドで背負わせた。ハトが

新聞社にもどるとハト係が記事や写真を担当に渡した。ハトたちは原稿やフィルムを何百羽も運んだ。ハトには成績表がつけられ、成績が優秀なハトほど出勤回数が多かった。成績が悪かったハトは、運動会を盛り上げるためにくす玉から飛び出す役をつとめたという。
毎日新聞では、東京オリンピックの次の年(1965年)まで大活躍した。「なるほドリ」の尊敬するトリは伝書鳩。ハトたちのがんばりは今も受け継がれている。



背中に写真フィルムをいれる筒を背負った伝書鳩。原稿は筒の中に入れて、新聞社に戻る時、タカに襲われる危険があり、複数の伝書鳩が同じ原稿を運んだ。